Fuva Brain

Press Release

報道関係者各位

2026 年 11 月 12 日

株式会社フーバーブレイン

【AI Guardian 事業化シリーズ 第 2 弾 生産性向上事業】

フーバーブレイン、自社開発の業務可視化製品「Eye“247” Work Smart Cloud」に AI 分析機能を付加する開発に着手

～ 提供を開始した「Work Smart AX」の業務改革アセスメントを起点に、

AI の導入・実装・運用・効果測定まで支援範囲を広げる「AI Deployment Service」を構想 ～

サイバーセキュリティカンパニーの株式会社フーバーブレイン（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：輿水 英行、東証スタンダード 3927、以下、当社）は、中期経営計画で掲げる「AI Guardian（日本発の AI ガーディアン）」構想の事業化に向け、自社開発の業務可視化・PC ログ管理製品「Eye“247” Work Smart Cloud」に、AI やクラウドサービスの活用状況も含め、業務を AI で分析・把握する機能を付加する開発に着手しました。2027 年 7 月以降、順次段階的にリリースしてまいります。



当社は、2026 年 11 月 2 日に子会社の株式会社 ProofX（以下、ProofX）と共同で提供を開始した業務改革支援サービス「Work Smart AX」の業務改革アセスメントを起点に、AI 分析機能を追加した「Eye“247” Work Smart Cloud」を共通基盤として、AI の導入・実装・運用・効果測定まで支援範囲を広げる「AI Deployment Service」を構想しています。

2026 年 11 月 11 日に発表したサイバーセキュリティ事業における「Eye“247” Safety Zone」への AI 統合分析機能の付加および「AI SOC（AI Security Operation Center）」の構想に続き、生産性向上事業においても、IT ツール事業（自社製品）と IT サービス事業（グループの専門人材）の双方に AI を組み込み、自社製品の販売拡大と IT サービスの高付加価値化を一体で推進します。

【用語】SOC（Security Operation Center）：企業のネットワークや端末を監視し、サイバー攻撃の検知・分析・対応を担う組織・機能。

■ 背景：AI 導入の「どこから・どう進めるか」が企業の共通課題に

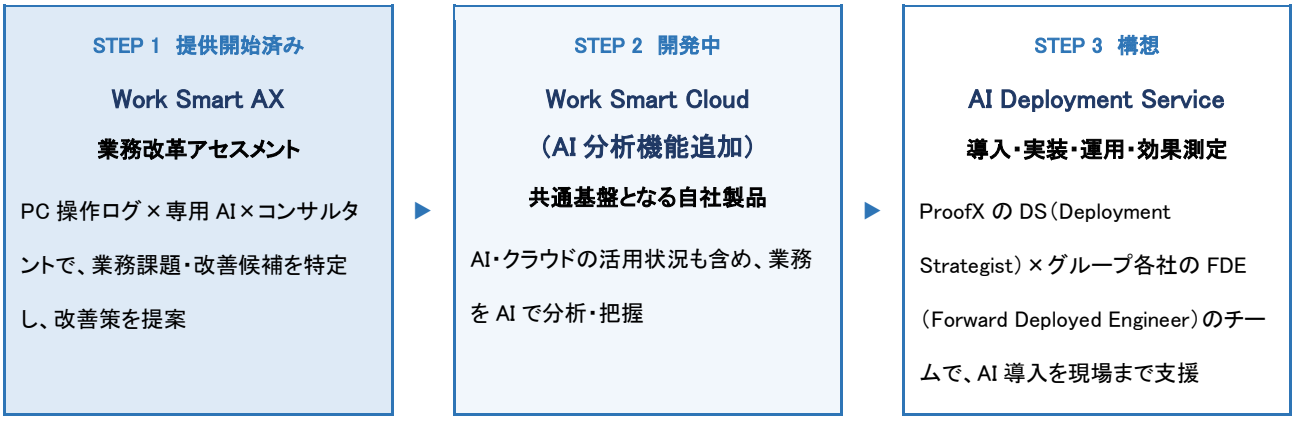
生成 AI や AI エージェントの普及により、業務改革への期待が急速に高まっています。一方で多くの企業では、「どの業務

に AI を導入すべきか分からない」「導入した AI が現場でどの程度活用され、効果を上げているのか把握できない」といった課題を抱えています。従来のヒアリング中心の業務調査では業務の実態を十分に把握しきれず、AI 導入の企画から現場への実装・定着、効果測定までを一貫して担える人材も不足しています。

当社は、これらの課題に対し、業務の実態を客観的なデータで捉える自社製品「Eye“247” Work Smart Cloud」と、AI 導入を企画・実装する専門人材を組み合わせることで、データに基づく実効性の高い AI 導入を支援します。

■ Work Smart AX から AI Deployment Service へ

本取り組みは、すでに提供を開始している「Work Smart AX」（診断）を入口に、AI 分析機能を追加した「Eye“247” Work Smart Cloud」（共通基盤）を活用して、「AI Deployment Service」（導入・実装・運用・効果測定）へと支援範囲を広げていくものです。全体像は以下のとおりです。



STEP 1：「Work Smart AX」― 業務改革アセスメント（2026 年 11 月提供開始）

提供開始済みの「Work Smart AX」は、「Eye“247” Work Smart Cloud」から取得した PC 操作ログを ProofX が開発した専用 AI で分析し、業務改革コンサルタントが現場ヒアリングで検証するサービスです。客観的なデータと専門家の知見を組み合わせ、業務課題や改善候補を特定し、実現性の高い改善策を提案します。初期サービスとして、原則 1 か月分のログ取得から、改善策・ROI 試算の提示までを行う「業務改革アセスメント」を提供しています。

既存顧客 5 社でトライアルを実施し、すでに 1 社から AX 実行支援を受注・契約しています。基盤となる「Eye“247” Work Smart Cloud」は、ITreview Grid Award 2026 Fall 業務可視化ツール部門において最高位「Leader」を 3 期連続で受賞しています。

STEP 2：AI 分析機能を追加した「Eye“247” Work Smart Cloud」― 共通基盤となる自社製品（開発中）

「Eye“247” Work Smart Cloud」は、PC 操作ログを取得して業務を可視化する当社の自社製品です。今回の開発では、取得するデータを拡張するとともに、AI による分析機能を付加し、AI 時代の業務を可視化する製品へと進化させます。これにより、アセスメント（診断）だけでなく、AI 導入後の活用状況や効果の測定にも同じ製品データを活用できるようになります。

追加する取得データ

- **AI の利用状況**：利用日時・時間・内容等の取得を検討
- **クラウドサービスの業務データ**：Microsoft 365 等との外部 API 連携を候補に検討

AI による分析・把握

- AI 活用状況と、業務との関連を把握
- ユーザーが日常の言葉で問いかけるだけで、AI が業務データを分析し、改善のヒントを提示

提供スケジュール（予定）

時期	段階	内容
2026 年 11 月	提供開始済み	「Work Smart AX」（業務改革アセスメント）提供開始
2027 年 7 月以降	開発中	AI による業務分析機能、AI・クラウドサービスの活用状況の可視化などを、順次段階的にリリース

STEP 3：「AI Deployment Service」— AI の導入・実装・運用・効果測定まで（構想）

アセスメントで特定した改善候補を、実際の AI 導入と成果につなげるのが「AI Deployment Service」です。ProofX の DS（Deployment Strategist）が顧客の業務課題を把握し、AI 導入シナリオを策定します。グループ各社の FDE（Forward Deployed Engineer）は、顧客の現場で AI の実装・運用・効果測定を担う体制を想定しています。

役割	担い手	主な業務
戦略立案	DS（Deployment Strategist） （ProofX）	顧客の業務課題を把握し、AI 導入シナリオを策定
現場での実行	FDE（Forward Deployed Engineer） （グループ各社のエンジニア）	顧客の現場で、AI の実装・運用・効果測定を担う
共通基盤	AI 分析機能を追加した Eye“247” Work Smart Cloud（開発中）	業務データの取得と AI による分析。導入前の診断から導入後の効果測定まで活用

専門家による戦略立案と、エンジニアによる現場での実行を結び付け、ProofX が行う AI 導入支援をグループ全体へ展開します。これまで ProofX 単体で行ってきた AI 導入支援を、グループの人材基盤を活用して拡大することで、付加価値とスケーラビリティを同時に高めるとともに、グループのエンジニアが AI 導入の現場を担う FDE として活躍の場を広げることで、IT サービス事業全体の高付加価値化を推進してまいります。

【用語】AX（AI トランスフォーメーション）：AI を活用して業務やビジネスモデルを変革すること。

【用語】DS（Deployment Strategist）：顧客の業務課題を把握し、どの業務にどのように AI を導入するかのシナリオ（導入計画）を策定する専門人材。

【用語】FDE（Forward Deployed Engineer）：顧客の現場に入り込み、AI の実装・運用・効果測定を顧客とともに担うエンジニア。

■夏目亮太について

- 株式会社フーバーブレイン　CAIO（チーフ・AI・オフィサー）/株式会社 ProofX　代表取締役 CEO
- AI 分野で世界最高峰の国際会議（CVPR 2019）において、5,000 を超える論文の中から「Best Paper Award Finalist」に選出
- 30 歳にして AI 関連論文の総引用数は 2,343 件※1 に達し、Meta や Google の現役 AI 研究者にも数多く引用。AI（コンピュータビジョン領域）における企業在籍の日本人研究者ランキングで世界 32 位相当※2
- 生成 AI の高難度案件に強い AI 技術集団「ProofX」を率い、自律思考型 AI エージェントの社会実装にいち早く取り組む

※1：2026 年 3 月 3 日時点「Google Scholar」参照

※2：「Google Scholar 引用数ランキング 2024 版（コンピュータビジョン領域）」（Research Port 公表）を参照し、夏目亮太の総引用実績から当社にて算出。

■ 今後の展望

当社は、自社製品への AI 機能の付加による「製品の販売拡大」と、それを活用したグループ人材による「IT サービスの高付加価値化」を両輪として、サイバーセキュリティ事業と生産性向上事業の 2 つの領域でオーガニックグロースを強化してまいります。AI を活用した最先端の自社開発製品と、それを使いこなす専門人材によるサービスを一体で提供する企業として、2030 年 3 月期の中期経営計画目標である調整後売上高 150 億円・調整後営業利益 15 億円の達成を目指します。

■ 本件に関するコメント

株式会社フーバーブレイン　代表取締役社長　奥水　英行

「AI の導入で成果を上げるためには、まず業務の実態を正しく捉え、そのうえで現場に AI を実装し、定着させるまで伴走することが欠かせません。当社には、業務の実態をデータで捉える自社製品と、ProofX の AI 専門人材、そしてグループ全体のエンジニアという、AI 導入を一気通貫で支える資産があります。昨日発表したサイバーセキュリティ事業と合わせ、自社開発製品への AI の組み込みと、それを活用した高付加価値サービスの提供により、当社グループは AI 企業として新たな成長ステージへと踏み出します。」

株式会社フーバーブレイン　CAIO/株式会社 ProofX 代表取締役 CEO　夏目　亮太

「Work Smart AX では、PC 操作ログという客観的なデータと AI 分析を組み合わせることで、これまで見えなかった業務改革の機会を具体的に示せることを確認しています。今後は Work Smart Cloud そのものに AI を組み込み、DS が描いた AI 導入シナリオを、グループの FDE が顧客の現場で実装・運用していく体制をつくります。研究の最前線の知見を、多くの企業の生産性向上に届けていきます。」

※「AI SOC」「AI Deployment Service」は当社の戦略上の名称であり、正式なサービス名称は今後決定します。

※本リリースに記載の開発中・構想段階の機能、サービス内容、提供時期は現時点の計画であり、今後変更となる可能性があります。また、本リリースは新たな業績予想を示すものではありません。

※本リリースには将来の見通しに関する記述が含まれています。これらは現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断であり、様々なリスクや不確実性により実際の結果と異なる可能性があります。

※記載されている会社名、製品名、サービス名は、各社の商標または登録商標です。

【会社概要】

会社名	株式会社フーバーブレイン（東証スタンダード：3927）
代表者	代表取締役社長　奥水　英行
所在地	東京都千代田区紀尾井町 4-1　ニューオータニガーデンコート 22F
設立	2001 年 5 月 8 日
資本金	796 百万円（2026 年 3 月 31 日現在）
事業内容	サイバーセキュリティソリューションの提供、働き方改革・テレワーク環境構築、IT 人材サービス、投資事業
URL	https://www.fuva-brain.co.jp/

会社名	株式会社 ProofX（当社連結子会社、2026 年 3 月子会社化）
代表者	代表取締役 CEO　夏目　亮太
所在地	東京都千代田区紀尾井町 4-1　ニューオータニガーデンコート 22F
事業内容	生成 AI を活用した業務改革（AX）コンサルティング、AI ソリューション開発、FDE コンサルティング
URL	https://www.proofx.xyz/

＜本件に関するお問い合わせ先＞

株式会社フーバーブレイン　管理部　齋藤

TEL：03-5210-3061　MAIL：pr@fuva-brain.co.jp